

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成22年3月26日)

里仁第四

15 子曰く、参や吾が道は一以て之を貫けりと。曾子曰く、唯と。子出づ。門人問いて曰く、何の謂ぞやと。曾子曰く、夫子の道は忠恕のみと。

孔子が曾子のところに来て「参や、私の一生涯かけて貫いている道は、ただ一つだ」と言いました。曾子が「はい、その通りでございます」と答えました。孔子は満足そうに曾子の前を立ち去って行きました。

曾子のお弟子さん達はその問答を聞いていて、いぶかしげに、自分のお師匠さんである曾子に「孔先生が言われたのは、どういう意味ですか」と聞くと、曾子が答えて、「孔先生の道は、忠恕(まごころと思いやり)だけである」と答えました。

確か、天皇陛下が皇太子時代に50歳の誕生日の会見で、好きな言葉を「忠恕」と挙げられていました。今年、皇太子さまが50歳の誕生日に寄せてのメッセージで、「忠恕という教えに基づいて、他人への思いやりの心を持ちながら、世の中のため、あるいは人のために私としてできることをやっていきたいと改めて思っております」と述べられました。

今の政治家でそういう言い方はないなと思います。

16 子曰く、君子は義に喩り、小人は利に喩る。

孔子が言うには、君子は人間としての正しい道を悟る。低レベルの人間は、利益に眼がくらむ。

どちらが良いか悪いかという話ではないが、利益に眼がくらむよりは正しい道にめざめてもらいたいものだ、という気持ちが入っているでしょう。

自民党も民主党も社民党も国民新党も、皆、そのまま言えると思います。何故、あの人は目先の利益追求型で政治をしているのかと、最近不思議に思ったりなりません。

17 子曰く、賢を見ては斉しからんことを思い、不賢を見ては内に自ら省みるなり。

「賢」は賢くて徳のある人。人徳がある人です。「不賢」は道德心のない人です。

孔子が言うには、賢くて人徳のある人を見ては、ああいう人になりたいと思い、道德心のない人を見ては、自ら反省するようにしている。

ああいう人になりたい、と思うような人がいれば幸せです。孔子であれば、「過去の聖人君子を見て、私もああいう人物になりたいものだ」と心ひそかに思う人がいる」と論語にあります。渋沢栄一は『論語講義』の中で、私は心ひそかに、孔子が行った行動を真似したい、孔子のような人物になりたいのだということを明解に言っています。渋沢栄一は少なくとも上半身は、孔子に学びたいと願って一生を送ったと感じています。

18 子曰く、^{しいわ}父母に^{ふぼ}事^{つか}えては、^{きかん}幾^{こころざし}諫^{したが}す。志^みの^{またけい}従^{たが}わざるを見ては、又^{らう}敬^{うら}して違^{らう}わず。
勞^{らう}して怨^{うら}みず。

孔子が言うには、もし両親がおかしな言動をし始めたならば、遠回しに諫めればよい。真っ正直に強く諫めてはいけない。遠回しに、そっと、本人がハッと気がつくような諫め方が良い。

年をとるとだんだん赤ん坊に戻ってくると言います。判断がだんだん出来なくなるから、遠回しが良いということです。

一所懸命諫めても両親が直そうとしないようであれば、両親の気持ちを苛立たせないで、日頃より更に謹んで、孝行したいという気持ちを決して忘れてはいけない。親から文句を言われてかなり酷い事をされた場合でも、決して怨んではいけない。自分がこの世に誕生したのは両親のおかげである。「孝」という文字は、非常に大切な考え方であるから、両親に対しては心の底から真心をもって仕えなければいけないとお読み下さい。

ちなみに中国の社会は、血脈で動いているような世界です。友人で、40 数年間日中貿易一筋で会社を経営し、中国に精通している人がいます。その人から聞きましたが、どんなに力量のある社員に会社を継がせても、中国に行かせるとまるっきり相手にされないそうです。自分の後継者だと紹介する時は、息子以外にはあり得ないと言っていました。中国で人脈を築いてきた人達は、息子ならば温かく迎えてくれるが、社員の中から抜擢したのでは鼻も引っ掛けない。それだけ血脈を費んでいるわけです。その血脈をベースにしているのは、「孝」の一文字です。「孝」という一文字で中国社会は成り立っているのだと、この文章を見ると感じます。

本日は以上です。有難うございました。